

土木学会関西支部 ぶら・土木 40
「第 2 回 整備局長と話してみよう!!」実施報告書

○企画の概要

日時：2024 年 5 月 28 日

場所：近畿地方整備局

主催：土木学会関西支部（担当：ぶら・土木）

対象：35 歳以下の土木学会員、もしくは学生

参加者：13 名（事務局、ぶら・土木幹事除く） 社会人 13 名、学生 0 名

13:30 受付

14:00 概要説明、自己紹介、名刺交換

14:30 局長インタビュー

15:30 施設見学（災害対策室や高規格道路管理センターなど）

16:00 茶話会（若手整備局職員 1 名参加）

17:00 終了

○当日の様子

当日はあいにくの雨天であり、公共交通機関の一部路線が運休となっていたため、降雨の状況によっては茶話会の予定を早めに切り上げることにした。参加者は事前の申込では 14 名であったが、学生 1 名がキャンセルとなり当日は 13 名に参加いただいた。

参加者を会議室に案内した後、当企画の概要説明を行った。整備局長へのインタビュー内容は前年度と同様に申込時に参加者に 1 名につき 3 つ記入いただいた候補の中から 1 つピックアップして質問リストを作成し、質問内容が誰のものかわからないようにするためにくじ引きで質問者を決定した。運営スタッフも含めた参加者全員の自己紹介の後、参加者同士での名刺交換を行った。その後、近畿地方整備局職員より、整備局の概要説明をしていただいた。

14:00 より整備局長室までご案内いただき、近畿地方整備局長の長谷川様に当企画の概要説明を行った後、参加者全員との名刺交換をして頂いた。

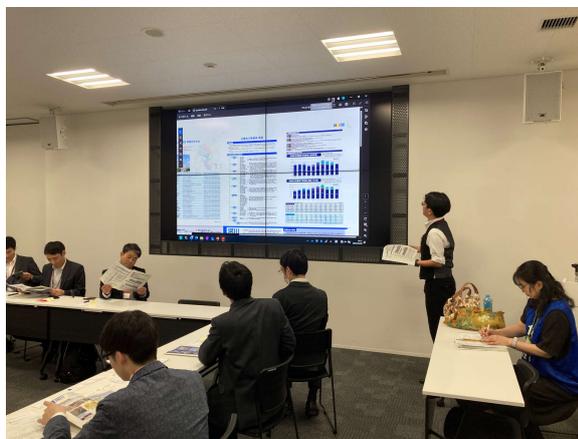
インタビューでは、「局長の業務の中でやりがいを感じることに」、「キャリアの中で一番苦労したプロジェクト」「若手技術者に期待すること」「インフラメンテナンスで重要視している施設」

「時間外労働時間の上限規制後の受発注者職員スキルアップ体制について」「地震等災害発生時の優先事項について」など様々な質問に回答して頂いた。長谷川様は局長に就任したばかりであるため、局長の業務についてのお話は少なかったが、ご自身の経験や携わってきたプロジェクトについてのお話を聞くことができた。その中で、令和元年の長野県千曲川浸水災害への対応が一番苦労した仕事であり、災害対応の重要性について時間を割いてお話していただいた。今後の大型災害発生時に導入検討したい機器として、普通免許を持っていればだれでも運転できる三輪バイク、衛星インターネット通信 Starlink、ドローンなどを挙げて、それぞれの有効性を説明いただいた。質問終了後は整備局長と参加者全員での記念撮影を行った。

15:30 より整備局内の営繕部、災害対策室、高規格道路管理センターを順に見学した。災害対策室は水害への警戒中であつたためごく短時間の見学となったが、その他では業務内容や設備など貴重な話を伺うことができた。

見学会終了後、参加者を 2 つグループに分けて茶話会を実施した。ぶら・土木幹事 2 名も分

かれて参加したが、近畿地方整備局の職員は災害対応の関係で1名であったため、片方のグループに参加していただいた。茶話会では参加者や各社の近況など様々な話題で話し合ってもらい、和気あいあいとした会となった。



整備局概要説明



整備局長への質問



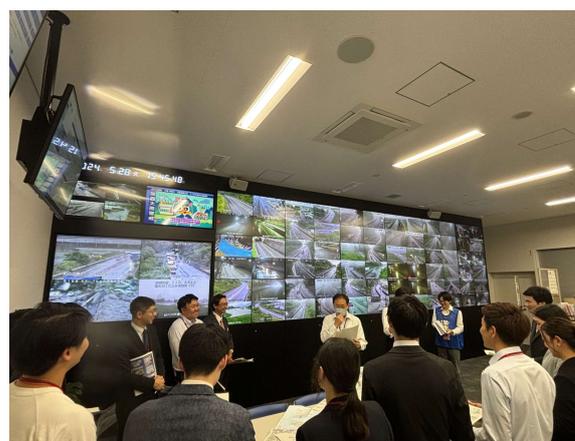
集合写真



営繕部



災害対策本部



高規格道路管理センター